

全小国研理事会 新会長あいさつ

会長 長沼正城
(東京都清瀬市立清瀬第四小学校)

このたび、会長の大任を仰せつかりました長沼正城と申します。
全小国研50年の歴史と伝統を継承し、さらなる発展を期して、微力を振り絞り、力を尽くしてまいりたいと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

私は、今年で教職36年目になります。若い頃に、大学の時代の親友に、「ものすごく勉強になるよ」と、誘われるがままに、国語の研究会で勉強する機会を得ました。そこでの恩師との出会いが今日の教師として礎をなしております。

楽しく学習する中に確実に礎基・基本を身に付け「自己実現」を図ること、そして学習者に豊かな言語を育むことで「人間形成」を図ること、その理論と実践を重ねながら学びを深めることができました。

私自身、もともと子供のころから国語が大の苦手でした。特に作文は苦手でした。何をどう書いていいのかさっぱりでした。楽しい思い出の遠足や運動会のあとには、必ずついてくる作文の時間。辛く悩ましい時間でした。書いては消し、書いては消して、右手の脇は、いつも鉛筆の芯のあとで黒くなっていたことを思い起こします。

昨年の広島大会の記念講演で児童文学作家の朽木祥氏がいみじくもおっしゃっていました。

「よく読む人は、よく書く人」。そして「とにかく読書が大事だ。」と。確かに私の少年時代は本とは縁がありませんでした。図書室では物語には手を出さず、生き物図鑑ばかり眺めていたように記憶しています。

そのような少年が、全小国研の会長というのは、本会の懐の深さを実感しております。

不肖の私が、この度の大任を受けさせていただいたのは、まさに私を育ててくださった恩師を始め、顧問の先生方に「恩返し」がしたいという思いだけです。

私の思いは、初代会長 朝倉 秀雄 先生、初代事務局長 瀬川 榮志 先生を鏡とし、草創期より伝わる全小国研の精神を引き継ぎ、未来への“つなぎ役”となることです。

名誉顧問の榊原良子先生を始め、顧問・参与の諸先輩、全国理事の皆様のご指導を仰ぎ、「全小国研は、いい仕事をしている！」と言っていただけのように本部役員と力を合わせ頑張ってまいりたいと存じます。

最後に、国語教育にける私の思いを短い言葉でまとめ挨拶とさせていただきます。

愛情の翼で抱け 未来っ子 激動の時も 豊かな言葉で
生き抜けや 言葉の力でたくましく 素直な心に 平和の言葉が
人生をいかに生きなん 我が胸に 響き聞こえし 恩師の言葉
「言葉は心 言葉は行動」 今日もまた 言葉とともに生きていく
全国の国語の光 その使命 笑顔の言葉と希望の言葉を

翻り遠く海の向こうにて 塗炭にあえぐ子に同苦 天をも仰ぎ 生きぬく言葉 一ゆめ忘れまい

(理事会当日の「あいさつ」を加筆訂正いたしました。)

※昨年の秋から全小国研もホームページを開いたしました。これは50周年記念式典のシンポジウムで話題となった大きな課題でもありました。その目的は、全小国研の事業を情報発信することと同時に、日本全国、北から南までの各県各都市の研究同人を「つなぐ」情報共有ツールを目指すことです。理事の皆様には、どうかご理解とご協力をお願いいたします。